

令和7年度 第76回山梨県中学校総合体育大会における「熱中症特別警戒アラート」発表時および通常の熱中症対策

競技名	「熱中症特別警戒アラート」発表時の対策	通常の熱中症対策
陸上競技	屋外競技は全て中止	・観客席、生徒、競技役員に対して、水分補給、日陰への移動、帽子の着用の注意喚起のアナウンスを頻繁に行う。 ・小瀬の各部屋のエアコンを積極的に活用し、競技役員や具合の悪い生徒、保護者が休める部屋を確保する。 ・100mスタート、ゴールにミストファンとスポットクーラーをレンタルで借りて来て増設し、生徒が競技前後に少しでも涼める環境を作る。 ・3000mでの朝一の実施と給水カ所の設営を行う。
水泳競技	屋外競技は全て中止	・水泳連盟から来ていただける看護師さんと連携を密にする。 ・開会式での連絡、競技間等に通告等の場内アナウンスで定期的呼びかけ((水分補給等の呼びかけ)を行う。また、各校顧問が協力し巡回を増やし、生徒の体調確認を行う。 ・WBGT測定器を利用し、定期的に測定する。 ・天候を見て判断し、表彰控え場所等にもテントを設置する。 ・競技役員への対策のためにも、小瀬からのテントを借りる数を多くしたり、簡易テントの持ち込みを促したりするなど、大会本部や各校でできることを最大限おこなうとともに、各校に協力を呼びかける。 ・熱中症対策費を使い、大会本部として、氷や経口補水液(OS-1等)を多めに準備する。また、各校へも事前に呼びかける。 ・総合体育大会は1日開催とし、選手の負担を減らす。 ・準備が整い次第、可能な限り早めに午前競技をスタートさせ、午前の競技が予定よりも早く終了した場合には、タイムテーブルを見直し、午後の日程を早めたり、昼休憩の時間を予定よりも長めにとったりすることにより、暑い時間帯における活動を避けるよう努力する。 ・暑くなっているときの給水だけでなく、活動(レース)前にも必ず適度な水分補給をさせた上でレースに入らせる。 ・レース間を通常に比べさらに余裕をもった大会運営を行う。 ・レースがない生徒は、応援する場合であっても必ず日陰になる場所で行わせ、炎天下の場所に長時間いることのないようにする。
バスケット	・使用する体育館が全会場エアコンつきの体育館で実施できる日は、通常の熱中症対策を行う中で注意しながら試合を行う。 ・エアコンが完備されていない会場がある1～2日目の場合には、適宜メディカルタイムアウトを実施した上で試合を行う。(メディカルタイムアウト・・・1試合1Qあたり、8分のうち4分が経過したところで、30秒間の給水、休息のみ目的としたタイムアウトをとる。それを4Qごと行う。)	・各会場に養護教諭、保健師、看護師の配置をしていただき、生徒の健康面について配慮する。 ・大会前における出場チームへの連絡を行い、熱中症対策に必要な準備をするように徹底する。
サッカー	屋外競技は全て中止	・多くの会場を比較的涼しい河口湖・富士吉田に設定した。 ・時間設定を調整し、生徒たちが会場にいる時間を短く設定する。 ・WBGTの値を30分置きに計測し、31℃に近づいた場合は、前後半の真ん中にクーリングブレイク(3分の休憩)を実施したり、状況に応じて飲水タイム(1分程度)を設けたりする。 ・各チームに暑熱対策として、噴射機や氷水につけたタオル、経口補水液等の用意をするよう促す。
ハンド	1日目(塩山体育館) 通常の熱中症対策に加えて、大型扇風機の増設と、本来チームが要求できるタイムアウトの数以外に本部水分による補給のためのタイムアウト(クーリングブレイク)の実施。観客席にも扇風機の設置。噴射機や氷水につけたタオル、経口補水液等の用意など各チームへの熱中症対策への指示。WBGT測定器の使用。 2・3日目(小瀬体育館) エアコンを常時使用、WBGT測定器の使用。本来チームが要求できるタイムアウトの数以外に本部水分による補給のためのタイムアウト(クーリングブレイク)の実施。各チームへの熱中症対策を講じるよう指示。	大型扇風機6台・工業用扇風機4台を使用する。コロナ禍までは解放しなかった扉を開放、ファンも回す。
軟式野球	屋外競技は全て中止	・「熱中症予防対策マニュアル」を基本に、準備、対応を行う。 ・試合開始時間を早めに設定する。 ・簡易テントの設営やベンチ内に扇風機を持ち込むなど、大会本部やチームでできることを最大限行う。 ・2、4、6回終了時に給水の時間を確保する。 ・各会場で熱中症対策グッズとして、氷や経口補水液、アイシング道具等を用意する。
体 操	総合体育大会は、空調設備のある体操クラブで大会を行う。クラブに依頼して、冷房をつけた状態で練習、競技を行う。 ・「熱中症特別警戒アラート」に対する、山梨県小中学校体育連盟のルールに沿って大会を運営する。 ・「熱中症特別警戒アラート」が発表されたことを全体へ周知する。 ・通常の熱中症対策の強化を行う。 ・大会選手、審判員、大会役員への水分支給と声掛けの強化を行う。	参加人数が少ないことで、セッティングに時間がかかる。クラブの生徒にも声をかけていただき、セッティング時間を少しでも縮小できるようにする。または、冷房設備のある体操クラブを会場として使用させていただく。また、休憩・水分補給の確保、給水所の設置、ゆとりのある時間設定、指標を見ながらの指示や放送の徹底を行う。
新体操	・「熱中症特別警戒アラート」に対する、山梨県小中学校体育連盟のルールに沿って大会を運営する。 ・「熱中症特別警戒アラート」が発表されたことを全体へ周知する。 ・通常の熱中症対策の強化を行う。 ・大会選手、審判員、大会役員への水分支給と声掛けの強化を行う。 ・試合の延期、もしくは、夕方開催(競技を1種目に絞る)などの検討を行う。	・大会時に、暑さ対策を各自行うよう事前に連絡する。 ・タブレット、経口補水液、冷却材を準備し、会場に常備、配布する。 ・試技と試技の間にドアを開放し換気を行う。 ・緑ヶ丘から、冷風機やミストを貸していただき、設置する。 ・競技を行わない選手が自由に使用できるクールルームを設置する。 ・体調不良者が出た際は、緑ヶ丘のクーラーが効いた部屋で対応・処置を行う。
バレー	・空調のきく体育館を確保し大会を実施する。 ・空調設備のない体育館をする場合は、比較的涼しい北杜市営の体育館を使用する。 ・試合会場を空調の利く体育館に移すなどの対策をとる。(白州体育館2面を日本航空体育館と小瀬体育館に移す)(1日目通常時:小瀬体育館3面・日本航空3面・大泉2面)(1日目緊急時:小瀬体育館4面・日本航空4面) ・大型扇風機を利用し室温上昇への対策を行う。 ・試合間にはできるだけ換気を行い室温上昇を防ぐ。 ・看護師を各会場に配置するとともに、救護室を使用する。 ・審判等の生徒役員にもセット間などに給水を行うように指示する。	・空調のきく体育館を確保し大会を実施する。空調設備のない体育館をする場合は、比較的涼しい北杜市営の体育館を使用する。 ・大型扇風機を利用し室温上昇への対策を行う。 ・試合間にはできるだけ換気を行い室温上昇を防ぐ。 ・看護師を各会場に配置するとともに、救護室を使用する。 ・審判等の生徒役員にもセット間などに給水を行うように指示する。
ソフトテニス	屋外競技は全て中止	・小中体連ホームページで、専門部としての熱中症予防対策についてのご願いを掲載し、熱中症予防に対する周知徹底を行う。 ・大会当日は、放送で頻繁に呼びかけ(給水や帽子の着用、日陰での休養など)をする。 ・養護教員や看護師を配置し、有事の際の指示を仰ぐ。 ・ヒートルールの適用(休憩時間を3分に伸ばす、チェンジサイズなどにも給水できる回数を増やすなど) ・試合が連続になるとときには、10分～15分間の休憩時間をする。 ・テント設置スペースを設けて、テント設置可能場所を多くする。 ・ベンチでの日傘の使用、チェンジサイズ時の「うちわ」や「せんす」の使用を認める。

卓 球	【冷房がある施設の場合】 常時、エアコンを使用して大会を実施する。 【冷房がない施設の場合】 12:00以降の試合は別に日程を設けて実施する。 ※冷房がない緑ヶ丘で、熱中症特別警戒アラートが発令された場合、別日に会場を予約しなければならないが、様々な種目で予約が埋まっているため、会場を押さえることが非常に困難だと思われる。	- 放送でこまめな水分補給をするように呼びかける。 - 冷房の使用により、暑さへの対応をする。 - 状況に応じて、休憩時間を適宜設け、昼食時間を長めに設定するなど対策を検討する。
バドミントン	- エアコンを常時使用する。 - 試合が続く選手については、時間的な配慮を行う。 - 水分を多くもたせるように会議で確認し、適切に水分補給をするように促す。	- エアコンを常時使用する。 - WBGT測定器の使用。 - 看護師に常駐していただく。
ソフトボール	屋外競技は全て中止	- 会場を南都留開催にして実施する。 3回表5回裏に3分間の給水タイムを導入する。また同一チームが20分守備をした場合にも給水タイムを導入する。 - 各チームに熱中症対策タブレットOS1ドリンクを配布する。 - 本部の準備としては、クーラーBOXに氷・保冷剤・OS1等の準備を行う。 - 審判への給水を積極的に行う。 1日1試合で大会運営を行う。
柔 道	- 発令された場合、部長及び審判長と協議し大会実施の判断を行う。 - 大会実施の場合は熱中症特別警戒アラートの発表があった旨をアナウンスし、水分補給の等の呼びかけを適宜行う。 - 審判員や役員への水分補給(水のペットボトルを支給) - 空調の使用 - 熱中症セット(WBGT測定器、耳式体温計、うちわ、OS-1、熱中症の応急処置マニュアル、記録用紙)の作成。 - 冷房がある救護室を別途準備。 - 十分な量の経口補水液や水を用意。 - アップ会場でのエアコンの使用、選手控えに扇風機の設置。	- 呼びかけの徹底。 - 審判員や役員への水分補給。 - 水の準備 - 空調の使用。(県で負担していただき、本当にありがとうございました。) - 熱中症セット(WBGT測定器、耳式体温計、うちわ、OS-1、熱中症の応急処置マニュアル、記録用紙)を作成。今後も使用していきたい。
剣 道	「熱中症特別警戒アラート」が発表されたことを全体へ周知する。 - 通常時の熱中症対策に準じる。	空調設備を稼働させる。 個人戦すべての試合と団体戦の代表者戦において、休憩・給水時間を設ける。 ＊試合時間3分→2分区分切りの延長を2回→その場で深呼吸程度の休憩 →2分区分切りの延長を2回→5分間の休憩(給水) 休憩後も延長2回→その場で休憩→延長2回→休憩(給水)を繰り返す。 救護席に経口補水液を用意しておく。 竹刀検量の待機列を第1武道場内に収める。
相 撲	通常の熱中症対策を行う。 室内で行い、エアコンを使用する。 水分補給のアナウンスをし、シャワー室にクーリングスペースを設ける。	室内で行い、エアコンを使用する。 また、OS1や保冷剤を常備し、いつでも対応できるようにする。
ラグビー	屋外競技は全て中止	試合開始時刻や会場等を変更する。 ウォーターブレイク(給水タイム)を通常前後半各1回のところを各2回以上確保する。 ハーフタイムを通常5分のところを10分に延長する。 氷やOS1、テント等を各チームで持参するよう働きかけるとともに、本部でも常備しておく。
弓 道	12射(午前8射・午後4射)の予定のところ、午前だけの競技とし8射で順位決定する。 - 屋外での応援はしない。 - 通常時の熱中症対策を徹底する。	- 熱中症の危険性を見て分かることができる温湿度計を用意し、状況に応じて、選手・応援の生徒、保護者に放送で呼びかけを行う。また、袴を着ていると熱がこもりやすいので、状況に応じて、袴を脱ぎ涼しい服装でいることを促す。 - 救護室は冷房がある部屋にし、十分な量の経口補水液や水を用意する。召集場所、控え室に扇風機を設置する。
テニス	屋外競技は全て中止	- WBGT測定器を利用し、定期的に測定する。 - 本部に、クーラーBOXを置き、氷・保冷剤・OS1等の準備を行う。 - 個人戦の1・2回戦を支部で行い、7月26日からのトーナメントの試合数を減らす。 - 県選手権大会で3位決定戦を行いシードを決め、昨年度まで行っていた代表決定戦をなくすことで26日以降についても試合数を減らす。 - 試合方法を6ゲーム先取、ノーアドバンテージという特別ルールで行う。場合によっては、ゲーム数を減らして実施する。 - 通常コートチェンジの際に給水・休憩が可能であるが、コートチェンジのないゲーム終了後にも給水を可とする特別ルールを採用する。 - 団体戦の相互審判制をセルフジャッジにすることで、生徒が炎天下に出る機会を減らす。 - テントの持参を呼びかけ、待機場所に日陰を多くできるようにする。また、開会式、初めての会で救護担当より熱中症にならないために気を付けるべきことについて話をしたり、終了後に打ち合わせを行い、翌日以降に気を付けるべきことについて連絡をしたるする。 - 放送で給水の呼びかけをこまめに行う。 - 事前に顧問に当日の注意事項などについて連絡を行い、生徒への伝達を徹底させる。
空 手	- 黒球式温度計による計測を15分おきに行う。 - 選手待機場所への扇風機を設置する。 15分おきに会場への熱中症に対する注意喚起のアナウンスを行う。 - 試合の間隔を十分にとり、選手の休息の時間を確保する。 - 給水の励行のアナウンスを入れる。	- 冷房を使用する。(会場に冷房設備がある場合) - 係員と審判員には、水のペットボトルを支給し、水分補給をこまめに出来るようにする。